

不登校児童生徒への対応事例 18（高等学校各学年）

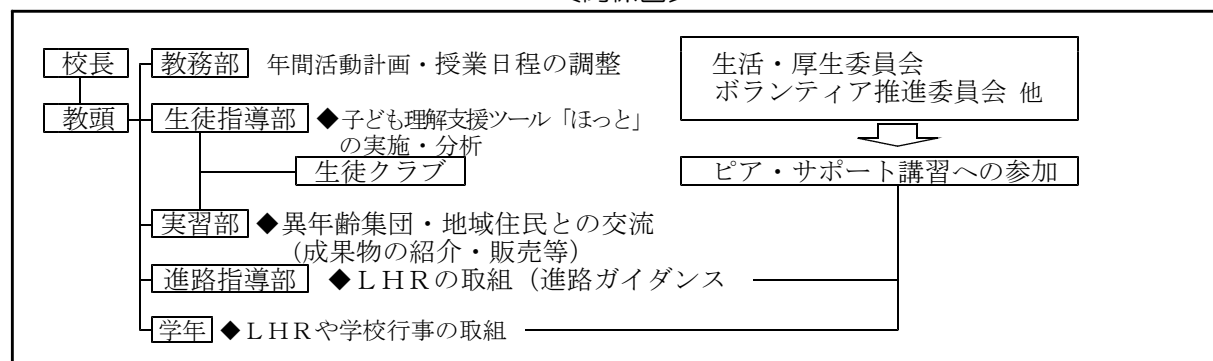
～ピア・サポートによる不登校・中途退学の未然防止に向けた組織的な取組～

問題の把握

子ども理解支援ツール「ほっと」の結果から、在校生の多くに社会性が十分身に付いておらず、援助要請に関するスキルが低い傾向にあることが明らかになった。生徒の居場所づくりと絆づくりを進めるため学校全体で、人間関係づくりのためのスキルアップとコミュニケーション能力を育成する取組の充実を図ることとした。

対応状況

〔関係図〕



〔対応の経過〕

○ピア・サポート・トレーニングの実施

・10月及び11月に、複数の委員会と希望する生徒を対象に実施した。参加生徒に基本的なサポートの手法を身に付けさせるとともに、既にトレーニングを受けた生徒が新たに参加する生徒に内容を伝える活動や、実施予定の異年齢間の交流等の活動を通して、生徒が主体的に活動に取り組もうとする意欲を高めるよう工夫した。

○入学式におけるピア・サポート活動の実施

・4月には、在校生が新入生や保護者への挨拶や受付・控え室への案内・誘導、説明等を行った。新入生の緊張感を緩和し、安心して高校生活をスタートできるようにするとともに、在校生の自己有用感が高まるよう工夫した。

○中学生や特別支援学校の児童生徒との学習や体験活動の実施

・夏から秋には、中学生の学校見学会や体験入学、特別支援学校の児童生徒の交流及び共同学習の際に、生徒が受付や案内、説明の他、学習や体験活動のサポートを行った。高校を訪れた児童生徒の不安や戸惑いを払拭するとともに、在校生の自己肯定感を高めるよう工夫した。

○取組の成果

- ・ピア・サポート活動の実施により、生徒間の人間関係が改善され、トレーニングを受けていない生徒にも相手を思いやる気持ちやコミュニケーション能力の向上が図られた。
- ・ピア・サポート活動に参加している生徒を中心にトレーニングを受けていない生徒も含め、学習やボランティア活動、学校行事等に仲間と協力して積極的に取り組む生徒が増加した。
- ・不登校生徒数、中途退学者数ともに減少している。

不登校の問題に対応するためのポイント

- ・「ほっと」等の客観的資料に基づき、児童生徒の状態に対するアセスメントを適切に行い、必要な取組を精選すること。
- ・児童生徒の居場所づくりを進めるため、児童生徒同士の望ましい人間関係を構築するためのコミュニケーションを一部の児童生徒から全体へと広げること。
- ・児童生徒の絆づくりを進めるため、児童生徒のコミュニケーション能力の育成を図る活動とそれを発揮する場や機会を教育活動に計画的に位置付け、学校全体で組織的に行うこと。